

倶多楽の火山活動解説資料（令和2年12月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図3～6）

7日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、各火口の状況や地表面温度分布に変化は認められませんでした。

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図1-③）

GNSS連続観測では、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています。

次回の火山活動解説資料（令和3年1月分）は令和3年2月8日に発表する予定です。

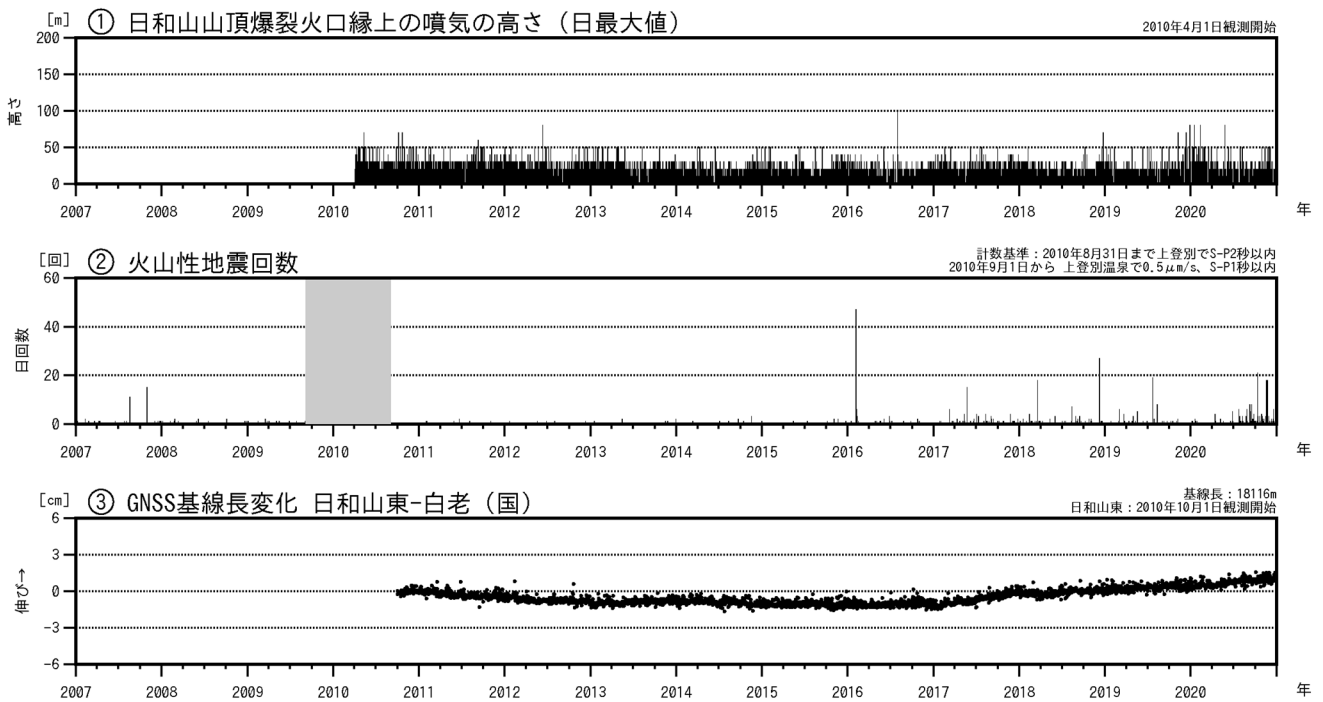


図1 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2020年12月）

- ②の灰色の期間は機器障害のため欠測しています。
- ③のGNSS基線長変化は図2の基線に対応しています。
- ③のGNSS基線長変化は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップを補正しています。
- ・倶多楽周辺で、2017年頃から観測されている基線長の変化が継続しています。

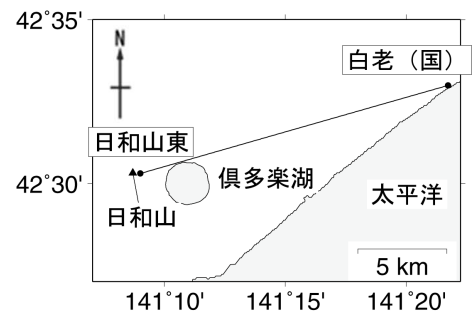


図2 倶多楽 GNSS 連続観測基線図
（国）：国土地理院



図3 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（12月28日、414m山監視カメラによる）

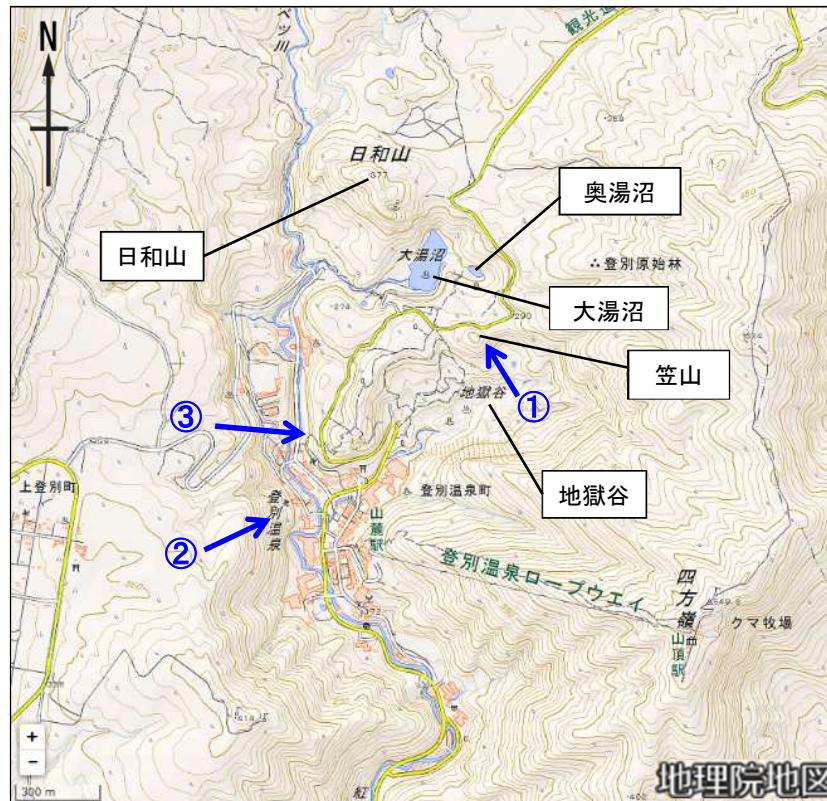


図4 赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

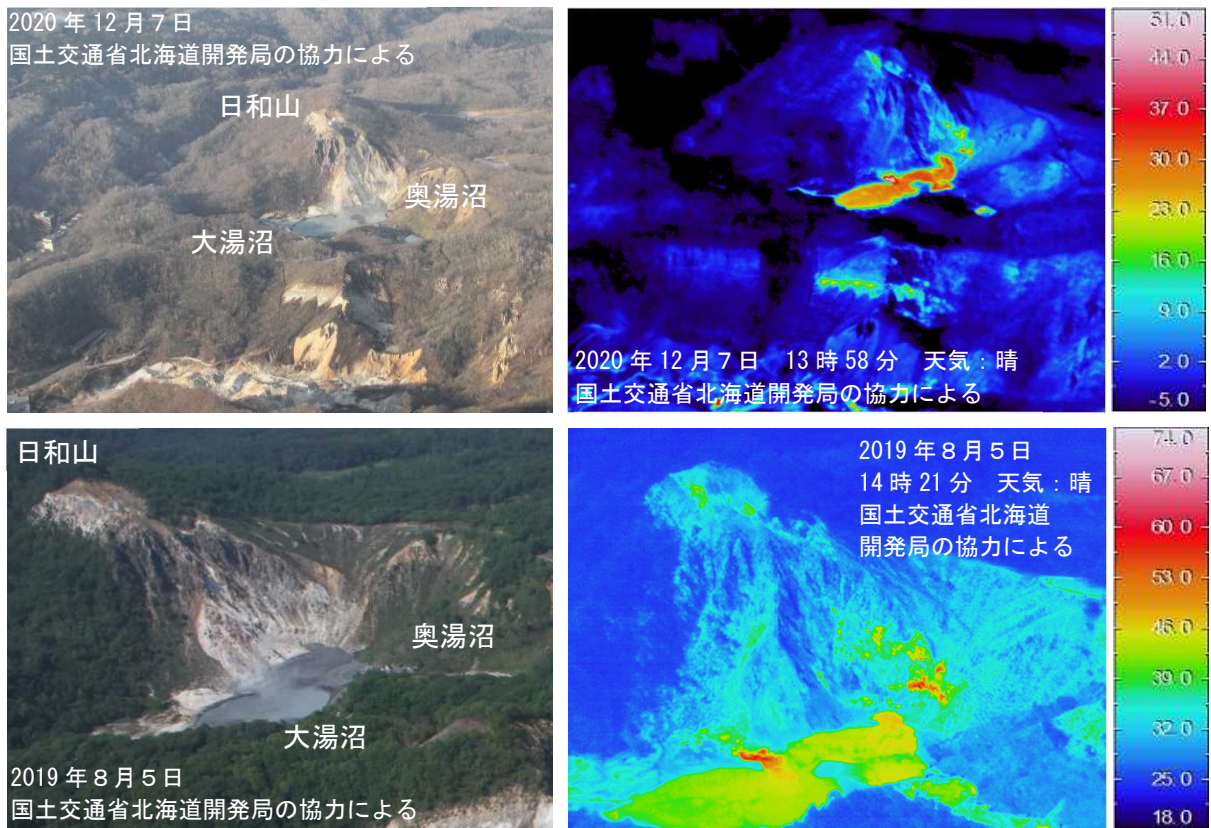


図5 倶多楽 赤外熱映像装置による日和山・大湯沼周辺の地表面温度分布

上：南東側上空（撮影方向①）から撮影

下：南東側上空（撮影方向①）から撮影

・日和山や大湯沼周辺の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

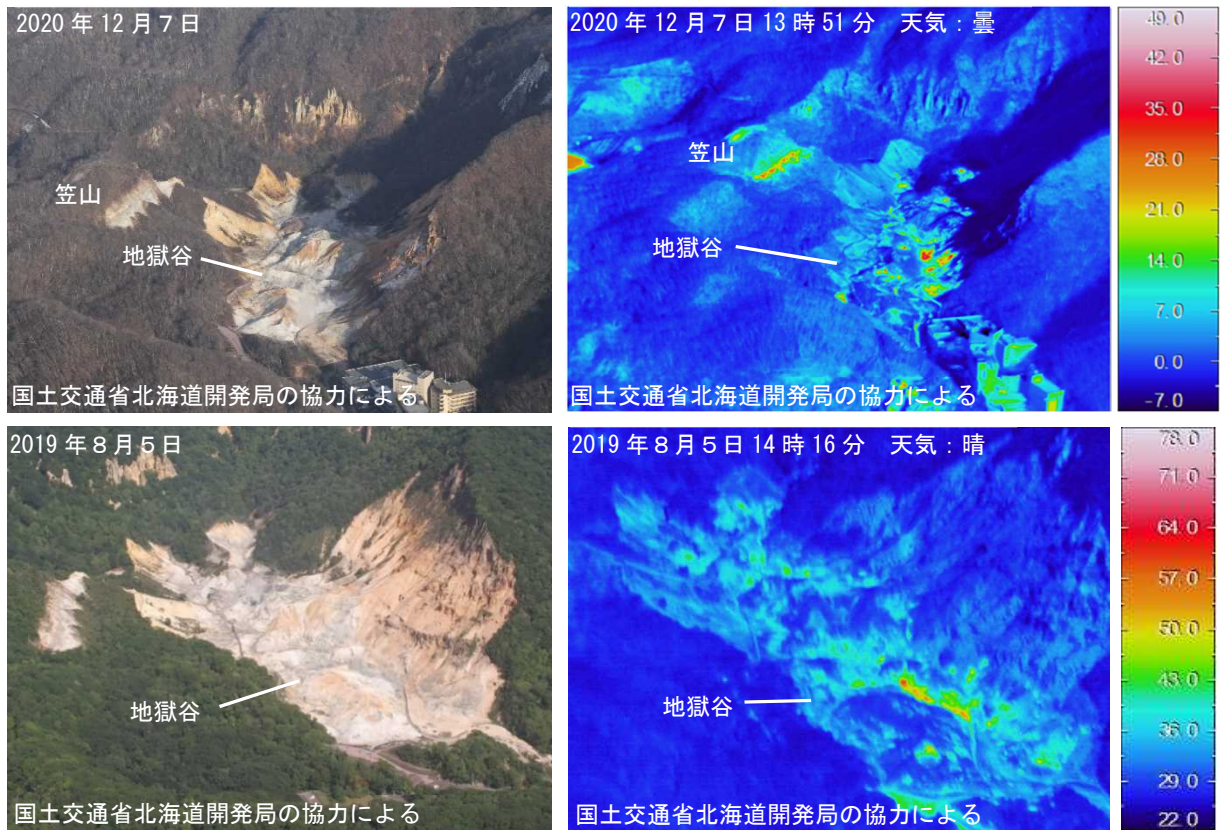


図6 倶多楽 赤外熱映像装置による地獄谷の地表面温度分布

上：南西側上空（撮影方向②）から撮影

下：西側上空（撮影方向③）から撮影

・地獄谷の噴気や地表面温度分布に変化は認められませんでした。

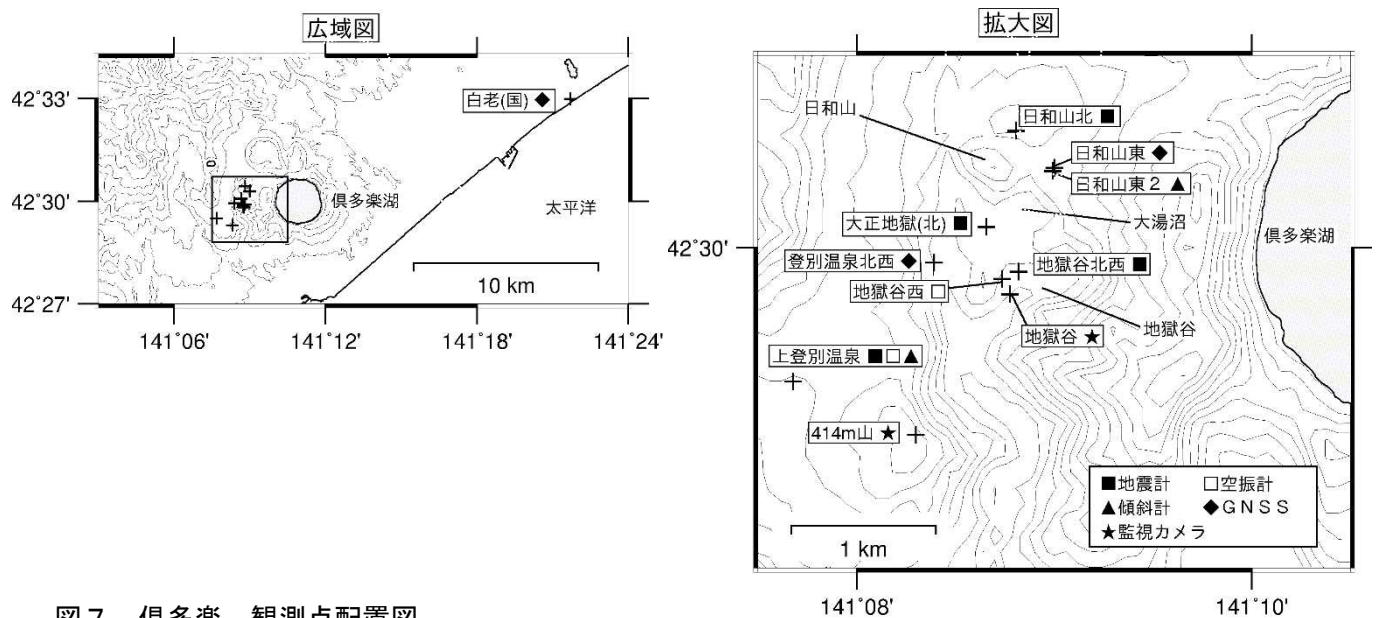


図7 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学